

顧問一年生

奈良市立富雄中学校・教諭

大西 佐知

(平成18年3月教育学部卒)

バスケットボール…？

初任者として本校に赴任し、もうすぐ一年になります。学校では、授業や部活指導、成績等の事務処理、そして教材研究など、日々すべきことがたくさんあります。そんな毎日の中で、私にとっては部活指導が最も大きな課題です。

四月に女子バスケットボール部を任せられました。バスケットは体育の授業で教えてもらったことがあるだけで、ルールもよくわかりません。知らないスポーツの指導なんて、全く自信がありません。しかし、体育館では部員たちが待っています。顧問がいないと、彼女たちは部活をすることができません。

顧問をすることには不安でいっぱいでしたが、今日から勉強して、彼女たちからも吸収しながら、顧問として部を引っ張っていきかなないと決意しました。しかし、決意はしたものの、わからないことだらけです。だから、バスケット雑誌や教則本、DVDなどを見て勉強したり、他の中学校と合同練習をしてもらって、その顧問の先生に教えていただいたりしました。

部員たちとひとむせ

顧問をしていると、辛いことや悔しさで涙を流すこともあります。練習試



体育館で三年生と一緒に。

合で自分の知らない戦法で攻められ、タイムアウトを取りました。肩を落としてベンチに帰ってくる彼女たちに、私は何も戦略を授けてやれないのです。自分の無知が情けなくて、また良いアドバイスもしてあげられなくて、悔しさでいっぱいでした。

もちろん、うれしいこともあります。試合に勝った時の彼女たちのキラキラした笑顔や、自分より大きな相手に必死でディフェンスをしている姿、相手チームからボールを奪い、5人で攻めてリングに入った時、ベンチの大きな声…。顧問をしていて良かったと思う瞬間です。こんな時間を、彼女たちともっと共有していきたいと思えます。これからも、何回も壁にぶつかるとは思いますが、彼女たちと一緒にバスケットを続けていきます！

れ

こ

れ

パワーの源は、子どもたちの笑顔

奈良市立富雄第三小学校・教諭

藤田 圭衣子

(平成17年3月教育学部卒)

無我夢中の一年目

一年目、初めて担任する子どもたちの前に立った時、うれしさと同時にその責任の重さをズシリと感じたことを覚えています。一年間講師をしていたとはいえ、初めての担任にどうしているのかわからないことばかりで、その日一日をこなすのに精一杯の日が続きました。そんな中でも、「学校は楽しい所だと感じて欲しい」という強い思いと、大好きな子どもたちの笑顔が私を支えていたように思います。

試練の二年目

一年目と同じ二年生の担任ということで、昨年よりは余裕を持つて子どもたちと関わる事ができるだろうと思っていました。しかし、同じ学年でも子どもが違ふと様子も全く違い、昨年以上に大変な毎日となりました。

思い通りにならないと暴れたり、教室を飛び出したり、暴言を吐いたりする子たち。目を離すとケンカが起こり、気の休まることのない日が続きました。正直「もうダメかも…」と思う日

もありました。でも、子どもたちの「先生、学校楽しい！」という言葉と笑顔に、そして同僚の先生方に支えられて頑張り続けることができました。

この二年間で学んだことは、子どもたちの力を信じる大切さです。何か起こった時、なぜそうなったのか、どうすれば良かったのかをみんな考え続けました。その積み重ねで、お互い理解し合うことができました。トラブルも減り、何か起こっても子どもたちがうまくフォローし合える関係ができています。大変だった分、今の成長した子どもたちの姿がうれしくて仕方がない毎日です。そして、私も子どもたちにずいぶん成長させてもらいました。

これから先、どんな時でも子どもたちの力を信じて、子どもたちとともに成長していける教師でありたいと思っています。



朝の会

鳴り止まない 電話の中で

京都市児童相談所・児童福祉司
稲垣 紀夫
(平成14年3月教育学部卒)



相談室の前で

ひ と ・ あ

ステップアップ を目指して

京都銀行久津川支店 溝口 万里子
(平成18年3月教育学部卒)



職場で